

「単純接触効果」

先週のNHK番組「チョコちゃんに叱られる」で、「なんで写真に写った自分の顔が気に食わないの？」という出題があった。その答えは、「それがあなたの本当の顔だから」だそうだ。私たちは自分の顔を鏡で見ることが多いが、それが自分のイメージしている「自分の顔」になっている。だから左右反転した顔が自分の顔という認識なのだ。しかし、写真は左右反転しない「本当の顔」である。人間の顔は左右、似ているようで違いがある。左右が入れ替わっただけで、かなり印象の違う顔になってしまう。本当の顔を見ると、自分の顔という認識ではないので違和感を感じ、多くの人が気に食わないとか、写りが悪いとか感じるようだ。

そこで、出てきた言葉が「単純接触効果」。単純接触効果とは、元々興味がなかった物事や人物をはじめ、音楽、味や匂いなどの目に見えないものに対しても、複数回接触を繰り返すことで、興味をもつようになる心理的現象である。たとえば、CMに流れている曲を毎日聞いているうちに、自然と覚えて、歌ってしまうなどが単純接触効果に当てはまる。そして、繰り返し見たり、会ったり、接触する回数が増えるほど、警戒心が薄れていき、親しみや親近感が強くなる。アメリカの心理学者ロバート・ザイアンスによって提唱されたため、「ザイアンス効果」と呼ばれることもある。鏡の顔は毎日のように見慣れた顔なので、親しみがわいてくるのだ。

そのメカニズムは未だ全て解明されていないようで、一説によれば見たり聞いたりしたときにできる潜在記憶が影響しているようだ。そのため無意識の時ほど単純接触効果は強く働くと言われている。単純接触効果は、いろいろな場面で利用されている。たとえば、商品売りしたい時、同じ広告を何度も繰り返し流し、客の目にふれさせているうちに、商品への警戒心を薄れさせ、購入意欲がわく可能性を高める。日々目に触れることが大切で、これは学習にも適応されるようにも思う。苦手な教科であっても、多少の変化を取り入れながら繰り返し毎日学習することによって、興味を高めることにつながるのではないか。

2月20日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 数直線上に、Aが -5 、Bが -1 、Cが 4 の位置にある。点DはACを $2:3$ に分けるA寄りの点で、点EはABの中点である。DEの長さを求めなさい。

